

## 【背景と目指す姿】

- 当該地域は、以前から市場出荷向けのたまねぎ産地であるが、**小規模な生産者による取組が多く、高齢化も進展**している。
- しかし、たまねぎ生産に有利な**ほ場整備の進んだ肥沃な水田、鬼怒川沿岸の砂質土壌など生産条件がたまねぎに適しており、更なる成長可能性**が見込まれる。
- そこで、土地利用型農業の担い手を対象として、**これまで取り組まれていない「加工・業務用たまねぎ」を推進**し、鉄コンテナ出荷、機械化・省力技術の導入、安定的な契約取引等による**低コストで安定的な収益を確保する新たなたまねぎの産地づくりを目指す**。

## 1 水田における露地野菜転換面積

現状(平成29(2017)年度):0ha → 目標(令和2(2020)年度):11ha

## 2 主な取組内容(平成30(2018)～令和2(2020)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模土地利用型農家や集落営農への露地野菜導入意向調査</li> <li>・人・農地プランの話し合い、農地中間管理事業の活用によりほ場の集積を推進</li> <li>・市貝町西宿地区において畦畔除去による大区画化</li> </ul>
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄コンテナ利用など出荷調整作業の省力化を図るための集荷体制を整備</li> <li>・低コストなセル育苗・機械定植、乗用管理機等省力技術に関する実証展示ほの設置と取組の拡大</li> <li>・集落営農組織構成員等の有効活用</li> <li>・農協チラシ等での広報を活用した労働力の安定確保</li> </ul>
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より良い条件の取引先の確保、相手の条件に合わせた生産体制づくり</li> <li>・商談会の活用とともに、全農とタイアップして、加工・業務用たまねぎの新規販売先を確保</li> </ul>



〔機械化実演会〕



〔加工用たまねぎ検討会〕